

## 三軒茶屋にある twililight さん取材に行ってきました！

### 〔概要〕

店内は間接照明の柔らかな灯りと味のあるアンティーク家具により、こじんまりと落ち着いた空間が成される。あえてランダムに配置された本と内设されたカフェやギャラリーから、店主の「気軽に立ち寄って、時間を忘れて本と向き合うことができる空間を味わってほしい」という素敵な思いが感じられる。

### 〔内装〕

「意味のないもので心のゆとりを」という店長の考え方により、空間の雰囲気によく合う様々な物がインテリアとして置かれている。大きな窓と天窗を遮るものは作らず、「光」を邪魔しない内装になっている。

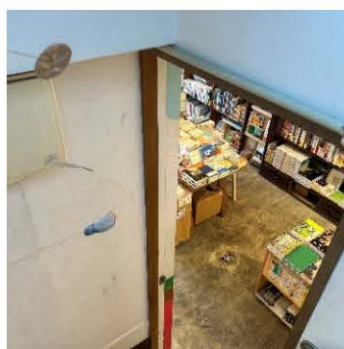
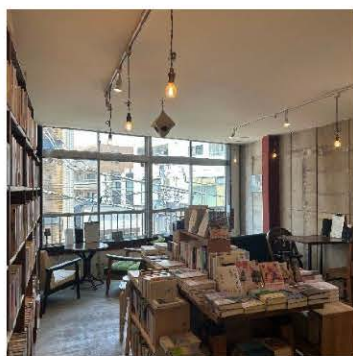
twililight さんの HP



Instagram



X (旧 Twitter)



書店内の様子

## 〔取材内容〕

Q1. 本をたくさん並べる際に心がけたことは何でしょうか。

A. 本屋の経験がなかったので、自分が本当に好きな本、自信を持って一冊一冊おすすめできる本から始めました。最初は2000冊ぐらいから始めて、そこから3年4ヶ月で8000冊になりました。店内をゆっくり見て回ってもらいたいので、カテゴリー別や著者別で並べるのではなく、隣り合う本同士が互いに魅力を伝え合うように並べています。

Q2. カフェが併設されているんですね。

A. お客さんにひと息つく時間を提供したいのでカフェは必須で、本屋とギャラリーとカフェを一つの空間にしたいと考えていました。

Q3. 空間を提供する仕事をやっていて、良かったことや難しかったことはありますか。

A. カフェだけを利用する人も多いのですが、1人で来て、本を選んで、お茶しながら外を眺めている方を見ると、やって良かったなと思います。

Q4. 空間を作る際にインテリアで工夫したことは何でしょうか。

A. 物件を内見した時は何もない状態でした。電気も通ってないから暗いのですが、大通り沿いにある窓と店内の奥にある天窓の光がきれいで光の通り道みたいに見えました。その通り道を邪魔しない空間にしたいと考えていました。光を邪魔しないために本棚の背を低くしたりして、その気持ち良さを活かしています。

Q5. 店内の飾りも素敵ですね。

A. 展示は2週間に1回ぐらい変わって、作家の作品を展示販売しています。本屋へ来た人もカフェに来た人も、ギャラリーで作品の前に立ち止まって鑑賞していただけたらと思います。



↑見晴らしの良い屋上



取材の様子



Q6. 様々なイベントを開催していますが、印象に残っているイベントはありますか。

A. 毎回とても刺激を受けているのですが、今年の3月から5月に行なった3周年イベントが印象に残っています。「わたしにもやってみることができる」というテーマで写真家、詩人、翻訳家などをお招きしました。イベント出演者で小説家の吉本ばななさんは、大ベテランで数々の賞を受賞されていますが、小説を書く時にはいまだにいつも「書けるかな」と思いながら書いていらっしやるようです。また、わたしにも「やってみることができるかもしれない」というきっかけになればと、歌人の岡野太嗣さんと木下龍也さんから短歌を教えてもらう機会を作りました。この方たちが毎回思い切って取り組んでいる様子を見て、影響を受けています。

Q7. 三軒茶屋で本屋を営業していて、利点やおすすめの場所がありますか。

A. 渋谷から2駅で来れるので立地が良い、県外の人でも来やすいこと、下北沢に比べるとまだ開発されていないので路地が多いことです。路地を楽しむという迷える楽しさ、豊かさみたいなものがあると思います。目的地が決まっているとすぐに行けてしまうので、他の町並みや景色を見られなくなってしまうことが多いと感じます。この twilight も3階にあるので、どんなお店なのか歩道からは分かりませんが、ほっとできたり、自分が求めているものに気づける場所にしたいです。また、三角地帯という戦後の闇市がそのまま残っている飲み屋街があり、夜が遅いイメージだったので、最初は営業時間を13時から22時までにしていましたが、お客さんがあまり来なかったため、今は12時から21時までになっています。



Q8. 学生におすすめの本はなんですか。

A. 学生さんによって色々だと思います。お客さんにおすすめの本はないですかと聞かれたら、その人の好みを聞いておすすめしています。

Q9. POPは作成しないのでしょうか。

A. 自ら本と出会ってほしいので、作成していません。

Q10. 好きな本や気になっている本はありますか。

A. ここにある本は全部好きです。ウェブマガジンをやっているのですが、そこで連載してもらったものを書籍化したり、それ以外にも出版しているので、twilight が出版している本も手に取ってほしいです。

＜店主の熊谷さんから学生一人一人におすすめの本を選んでいただきました！＞

T.A. (国文学科2年) →戦時中の小説に興味がある。

- ・『女の子たち風船爆弾をつくる』著：小林エリカ 出版：文藝春秋

Y.K. (国文学科1年) →小説やエッセイなど読む本は様々で、言葉がきれいな本が好き。

- ・『よいひかり』著：三角みづ紀 出版：ナナロク社



O. (美学美術史学科) →本を読んでいる最中に自分の思想が入り込んでくるため、

「好きなジャンル」を決めたくない。

- ・『ミーツ・ザ・ワールド』著：金原ひとみ 出版：集英社

T.K. (美学美術史学科1年) →あんまり本と関わりがなかったので、

何から読み始めていいのか分からない。

- ・『トワイライライト』著：畑野智美 出版：twilight



H.K. (美学美術史学科1年) →小さいころに図書館で借りた本が好きで、今も読んでいる。

(『こそあどの森の物語』シリーズ 著：岡田淳 出版：理論社 など)

- ・『グレイッシュ』作：大島恵真 画：nakabun 出版：文研出版

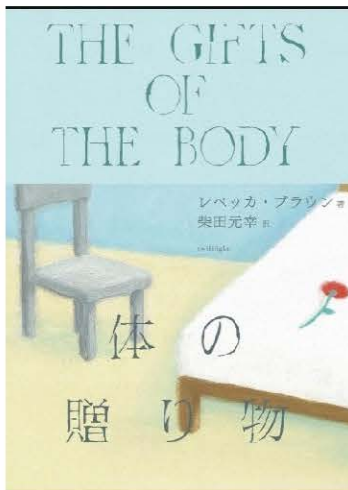
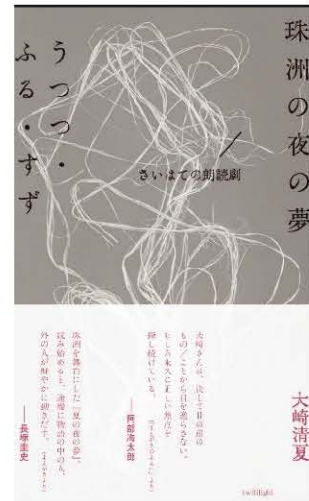
- ・『七夜物語』(上中下) 著：川上弘美 出版：朝日新聞出版

## <店主の熊谷さんが出版した書籍>

『珠洲の夜の夢／うつつ・ふる・すず さいはての朗読劇』

著：大崎清夏 出版：twililight

→能登半島の珠洲を舞台にした朗読劇の戯曲集。



『体の贈り物』著：レベッカ・ブラウン 訳：柴田元幸 出版：twililight

→エイズ患者のホームケアワーカーの交流が描かれる。2001年に出版後、絶版になってしまったが、もったいないと感じた熊谷さんが発刊した。

『sanchapbook』シリーズ 出版：twililight

→三軒茶屋がテーマのポケットブック。  
三軒茶屋にゆかりのある方たちが小説、  
エッセイなどを書いている。



### 〔取材を終えて〕

・3周年イベントの「わたしにもやってみることができる」というテーマには「失敗しても大丈夫」と励まされる気がしました。様々な職種の方と交流することで、今まで見えなかったものに気づくと改めて感じます。店主の熊谷さんから興味深いお話を伺うことができ、貴重な体験をさせていただきました。ご協力いただき、本当にありがとうございました。(国文学科2年 T.A.)

・今回は都合がつかず取材への参加は叶いませんでした。しかし当日の写真や質問から書店の雰囲気や魅力を感じることができました。カフェ、ギャラリー、そして書店と、見どころや楽しみどころが他の書店よりも多い、魅力が沢山ある書店だと感じました。書棚にはぎゅっとさまざまな本が並んでおり、それを眺めるだけでも楽しそうです。少し日常から離れたいときに、訪れてみたいです。(国文学科3年 W.M.)

・普段足を運ぶような本屋さんでは巡り合えないような本が、私たちと目が合うのをじっと待っているような雰囲気が印象的でした。取材中だということを忘れそうになるほど本のラインナップが素敵で、出会う本の一冊一冊に心を奪われました。ふらっと足を運びたいようなお店です。また訪れたいと思います！(国文学科1年 Y.K.)

・普段行くような本屋さんとは違い、窓際には、タイトルに「窓」というキーワードが入っている本が置かれていたりなど、こだわりのあふれる場所でした。チェーンの本屋さんでは、見たこともないような本が多数置かれており、とても興味深かったです。また、本屋だけではなくカフェやギャラリーも併設されていて、お客さんが店内で長い時間を過ごせるようにという工夫を感じました。読む本を冒険しなくなった時に、また訪れたいです。(美学美術史学科1年 H.K.)

・今回は直接足を運ぶことはできませんでしたが、写真や取材した人の話からも twilight の魅力を強く感じました。本やアートに囲まれた素敵な空間で、チェーンの書店では見かけないような本が並んでいたり、カフェやギャラリーが併設されていたりと、普段の書店とは違った魅力を持つ空間だと思いました。写真を見ているだけでもとてもワクワクして、いつもと違う気持ちになりたい時におすすめの場所だと思いました。いつか実際に訪れてみたいです！(美学美術史学科1年 S.R.)

・三軒茶屋にひっそりと佇む twilight は、優しい店主の方と本やアートに囲まれたとても温かい空間でした。店主の方が取材メンバー1人ひとりの意見を聞いて、それぞれにお勧めの本を選んでくださった経験は、新鮮でとても貴重な経験となりました。カフェとギャラリーが併設された本屋さんは唯一無二で、気が付いたら時間を忘れてしまうほど夢中になっていました。また訪れたいと思うとても素敵な本屋さんです。(美学美術史学科1年 T.K.)

・twilight の第一印象は、忙しく動く三軒茶屋の町から切り離された、時間の流れがゆっくりとした空間に感じました。初めは、カフェや本屋、ギャラリーなどを複合した異空間的な場所であるからと考えていましたが、取材を進めていくうちに、店主の細部にまでこだわる心がけによるものだと分かりました。これらのことは取材したからこそわかる貴重なものでした。(美学美術史学科 O.)